



11. 平成 13 - 24 年度 授業アンケート経年比較

平成 13 - 24 年度 授業アンケート経年比較

平成 13-24 年度 授業アンケート経年比較

ここに示す資料は、福島大学において平成 13 年度より実施されてきた「教育改善のための学生アンケート」（授業アンケート）について、公表されているデータをもとに経年比較を行い、その結果をまとめたものである。具体的には、各年度の『福島大学 FD プロジェクト活動報告書』に掲載された共通教育（共通領域・自己デザイン領域）と専門教育の別の集計をもとに、各設問の回答数、割合、及び平均ポイント等をまとめ、前期、後期それぞれの経年による推移を一覧表ないしグラフにて示した。経年比較資料の全体については、福島大学総合教育研究センター紀要第 16 号に掲載しているが、ここでは同資料から冒頭の解説部分、及び一部の図表（授業理解の努力、授業時間外の勉強、総合的な満足度）を抜粋して掲載する（丸山）。

（以下、丸山和昭 2014 「教育改善のための学生アンケート」平成 13-24 年度データの経年比較資料」『総合教育研究センター紀要』第 16 号より抜粋）

1. はじめに

本資料は、福島大学において平成 13 年度より実施されてきた「教育改善のための学生アンケート」（授業アンケート）について、公表されているデータをもとに経年比較を行い、その結果をまとめたものである。具体的には、各年度の『福島大学 FD プロジェクト活動報告書』に掲載された共通教育（共通領域・自己デザイン領域）と専門教育の別の集計をもとに、各設問の回答数、割合、及び平均ポイント等をまとめ、前期、後期それぞれの経年による推移を一覧表ないしグラフにて示している。

「教育改善のための学生アンケート」は、開始から 10 年余りを数えた現在、マンネリ化やフィードバックの不足に対する課題も抱えている。また、授業アンケートの在り方の見直しは、福島大学に限らず、多くの大学でも問題とされる点であり、特に「学生のふり返し」に焦点をあてた調査の再設計に注目が集まっている。福島大学の『教育改善のための学生アンケート』もまた、これまでの実績を十分に分析し、共有したうえで、更なる充実に向けて、実施方法や設問、在り方の見直しと改善を、継続的に進めていく必要がある。本資料が、そのための基盤となることを願いたい。

2. 授業アンケート実施の経緯と概要

まず「教育改善のための学生アンケート」（授業アンケート）の実施経緯と、その後の改訂の概要は次の通りである。同アンケートは平成 13 年度に 21 項目（選択式・自由記述式込み）から開始された。共通教育から始まったが、後に専門教育にも適用されるようになった。授業アンケートの目的は、第 1 に教員個人の授業改善、第 2 に学生のふり返しとされている。アンケート結果の活用方針としては、「アンケートの本来の趣旨以外の目的で使われることを避けるため、個々の授業ごとの集計は授業担当者のみに戻すこととし（データ入力と集計はすべて外注）、FD プロジェクトをはじめ、いかなる組織でもそのデータを扱わない。」「大学として教育改善に取り組むためには何らかのデータ分析は不可欠である。

そこで、別表に示した科目群で集計をし、その結果については全学の検討に付す。その際、クラスサイズが一桁以内の授業は集計から除外する。また、授業科目が特定できるケースについては公表からはずす。「自由記述内容については、個々の授業担当者が参考にすべきものであり、公表はしない。」の3つが確認された（『平成13年度福島大学FDプロジェクト活動報告書』77-78頁）。

その後、平成18年度後期からは従来のものに加え8項目の簡易版が作られ、従来版と簡易版が並行して実施されてきたが、平成21年度より従来版を廃止し、本格的に簡易版（現行版）へ移行した。過去の質問票について、参考までに本資料の末尾に付す。また、過去の「教育改善のための学生アンケート」の改訂の経緯や分析は、以下の論文に詳しい。本資料と併せてご参照いただきたい。

板橋孝幸、2007『総合教育研究センター紀要』3号
「福島大学における「授業アンケート」の現状と課題」

板橋孝幸、2010『総合教育研究センター紀要』9号
「「授業アンケート」の活用における現状と課題」

板橋孝幸、2011『総合教育研究センター紀要』10号
「「授業アンケート」に関する教員の意識調査」

渡部芳栄、2013『総合教育研究センター紀要』14号
「福島大学生の授業外学修時間の分析」

3. 本資料の取りまとめの方針

以上の経緯の下、福島大学の「教育改善のための学生アンケート」は、設問や実施方式に修正を加えながらも継続的に実施されてきた。各年度のアンケート結果の詳細については、それぞれ『福島大学FDプロジェクト活動報告書』（福島大学HPのhttp://www.fukushima-u.ac.jp/for_student/fd/fd.htmlより閲覧可能）に掲載されている。本資料が経年比較に用いるのは、これらの報告書を通じて公表された平成13年度から平成24年度にかけての専門教育と共通教育（共通領域・自己デザイン領域）の集計結果である。経年比較を行うにあたり、本資料では以下の方針に基づいて取りまとめを行った。まず「教育改善のための学生アンケート」は平成18-20年度にかけて、従来版と簡易版が並行して実施されているが、この期間については互いに異なる設問については別個に、共通する設問は合わせてデータを集計した。各項目がいずれにあたるかについては、末尾の質問票と、各一覧表の合計（実数）欄をご確認いただきたい。その他、現行の設問との対応が明確な過去の設問については、現行の設問に合わせてデータを集計し、経年比較に用いている。現行と過去の設問の主な対応は次の通りである。

- ・(H13 後期-18 前期) 学生への対応が適切→(H18 後期以降) 適切なコミュニケーション
- ・(H13 後期-18 前期) シラバスに沿った授業→(H18 後期以降) シラバスの記述が適切
- ・授業・担当教員・教育環境への評価ポイント
 - (H13 後期-H14 前期) 1.強く思う～(5 段階)
 - (H14 後-H18 前期) 5.強く思う～(5 段階)
 - (H18 後期以降) 5.はい～(5 段階)

なお、平成 13 年度後期と平成 14 年度前期は、現行に合わせて点数を逆転（「強く思う」＝5～「まったくそう思わない＝1」）させて集計した。その他にも、いくつか設問文に変更が加えられている。詳細については末尾の質問票見本をご参照いただきたい。

上記方針に基づき、本資料では、過去の質問票に用いられていた設問（過去設問）、現行の質問票で用いられている設問（現行設問）、及び平成 13 年度の質問票から現行の質問票に至るまで継続して用いられている設問（継続設問）の全てについて、回答数及び割合をまとめ、前期、後期それぞれの経年推移を一覧表（一部グラフ）にて提示した。また 5 段階評価の形式を採る設問については平均ポイントを併せて算出している。

4. 経年比較から得られる示唆

今回の経年比較から得られる示唆として特筆すべき点は、“勉強しない学生”の減少傾向と、授業・教員・教育環境に対する評価ポイントの上昇傾向である。

たとえば“勉強しない学生”の減少傾向は「授業理解の努力」や「時間外の勉強」に対する回答傾向の変化にみてとることができる。「授業理解の努力」は、平成 18 年度後期以降に追加された設問である。授業を理解するために行った努力について、7 つ選択肢から 3 つまでを選ぶ回答形式であるが、このうち「何もしなかった」を選択する学生の割合が、継続的に減少している。また「時間外の勉強」では、平成 18 年度前期までは「非常によく勉強した」から「まったくしなかった」までの 5 段階で、平成 18 年度後期以降は 1 回の講義あたりの平均関連学習時間（5 段階）で、それぞれ授業時間以外の勉強量を尋ねている。このうち平成 18 年度前期までの経年比較からは「まったくしなかった」と答える学生の割合の減少を、平成 18 年度後期以降の経年比較では「30 分未満」と答える学生の割合の減少を、それぞれみてとることができる。

また授業・教員・教育環境に対する評価ポイントの上昇傾向は「総合的な満足度」に対する評価ポイントの推移に顕著である。「総合的な満足度」は、平成 13 年度のアンケート開始時から現行の質問票に至るまで、一貫して 5 段階評価による回答形式となっている（「学年」を除くと、アンケート開始時の回答形式を保つ設問は「総合的な満足度」に限られる）。この「総合的な満足度」について、評価ポイントの平均ポイントをみると、共通教育では前期が 3.92 から 4.44 に、後期が 3.84 から 4.48 に上昇している。また専門教育でも前期が 3.91 から 4.35 に、後期が 3.98 から 4.37 に上昇している。

5. おわりに

その他、各設問の一覧表、グラフの掲載頁については、次頁の目次に示す通りである。関心に応じてご確認ください。

なお、『福島大学 FD プロジェクト活動報告書』に掲載されたアンケートデータは、本資料に示すものに限らず、共通教育については科目分野別に、専門教育については学類別に、それぞれ詳細な集計がまとめられている。これらのデータについての経年比較も、今後、継続的に進めていき、公表、共有を検討したい。

本資料が経年比較の対象とした期間は、学類制への移行をはじめとして、教育体制の大きな改革を含む 10 余年である。このようななか、継続的な“勉強しない学生”の減少や授業満足度の上昇がみられたことは喜ばしい。制度改革の影響もさることながら、個々の授業担当者の努力に拠るところが大きいと考えられる。今後求められるのは、これらポジティブな成果をもたらす授業の工夫や改善を掘り起こし、共有していくための質的な作業であろう。

最後に、本資料が示すのは、福島大学における教育活動の、ごく一側面にすぎない。授業、科目郡の優劣を測るためではなく、あくまで「大学として教育改善に取り組む」ためのデータとして、その他の資料や学生、教職員の声と併せて、総合的に用いられていくべきであろう。このような意味において、本資料が福島大学の教育活動をふり返り、更なる充実をはかる上での一助となることを強く願う。

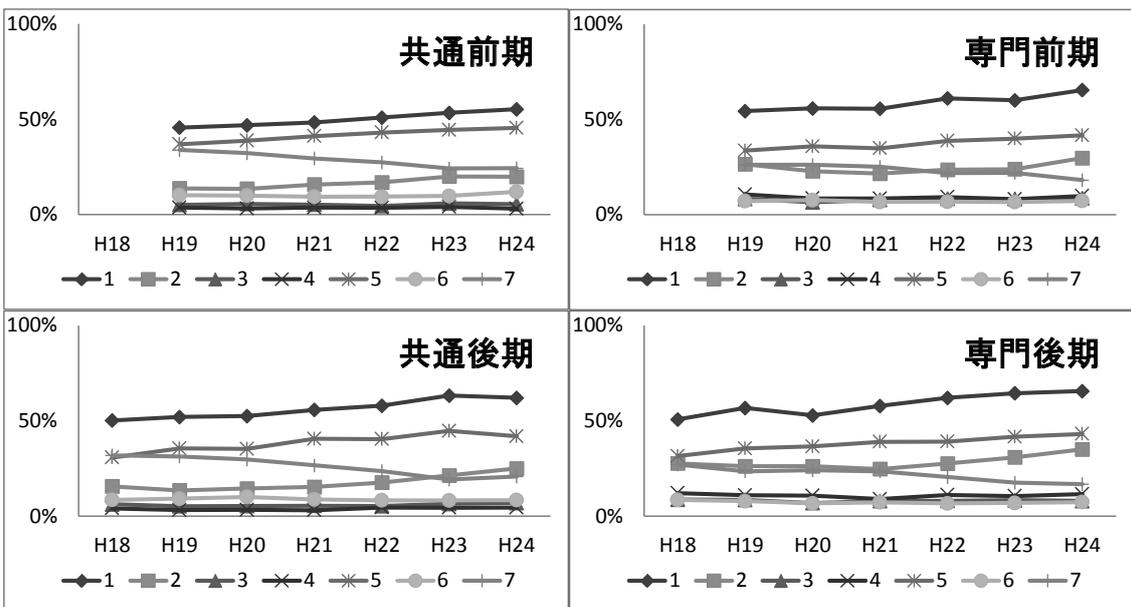
(記)

本資料は、福島大学の FD プロジェクト名にて実施してきたアンケート結果に基づいて丸山が執筆を行ったものであり、文責は丸山にある。多忙な中、質問紙の配布及び回収を進めていただいた教職員の方々、調査にご協力いただいた学生の皆さん、及び高等教育開発部門において本アンケートの改訂、分析に取り組んでこられた板橋孝幸先生（現 奈良教育大学 准教授）、渡部芳栄先生（現 岩手県立大学 特任准教授）に、心からの御礼を申し上げます。また、本資料の作成にあたっては、データの入力に際し、事務補佐員の氏家美穂さんに多大なご助力をいただいた。記して感謝の意を表したい。

・学生自身の取り組み③ 「この授業をよく理解するためにどのような努力をしましたか(3つまで回答)」

		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24		
前期	共通	1. ノートや配布資料を復習した						45.6%	46.8%	48.3%	50.8%	53.3%	55.2%		
		2. インターネットで検索した						13.7%	13.4%	15.7%	16.8%	20.0%	19.8%		
		3. 参考書を買って調べた						5.1%	5.5%	5.2%	4.5%	5.8%	5.5%		
		4. 図書館で文献を調べた						3.6%	3.1%	3.6%	3.5%	4.0%	3.0%		
		5. 友だちと話して理解するようにした						36.8%	38.7%	41.1%	42.9%	44.3%	45.4%		
		6. 先生に質問した						10.2%	9.9%	9.3%	9.4%	9.7%	11.9%		
		7. 何もしなかった						33.8%	32.2%	29.4%	27.4%	24.1%	24.2%		
		※回答者全体(実数)							9750	9710	10004	9392	9034	9385	
	専門	1. ノートや配布資料を復習した							54.4%	55.8%	55.6%	61.0%	60.0%	65.4%	
		2. インターネットで検索した							26.4%	22.8%	21.5%	23.5%	23.9%	29.7%	
		3. 参考書を買って調べた							8.3%	6.5%	7.8%	8.5%	8.3%	8.6%	
		4. 図書館で文献を調べた							10.5%	8.5%	8.4%	9.2%	8.1%	9.8%	
		5. 友だちと話して理解するようにした							33.6%	35.8%	34.8%	38.7%	39.9%	41.6%	
		6. 先生に質問した							7.1%	7.6%	6.7%	6.8%	6.6%	7.2%	
7. 何もしなかった								26.2%	26.1%	25.1%	21.8%	22.0%	18.1%		
※回答者数								15064	15198	14952	14938	13834	14071		
後期	共通	1. ノートや配布資料を復習した						50.2%	52.0%	52.5%	55.7%	57.9%	63.2%	62.0%	
		2. インターネットで検索した						15.6%	13.5%	14.5%	15.3%	17.6%	21.3%	25.0%	
		3. 参考書を買って調べた						6.2%	5.2%	5.3%	5.4%	5.2%	6.4%	6.9%	
		4. 図書館で文献を調べた						4.0%	3.1%	3.3%	3.1%	4.5%	4.4%	4.4%	
		5. 友だちと話して理解するようにした						30.7%	35.5%	35.2%	40.5%	40.4%	44.7%	41.9%	
		6. 先生に質問した						8.5%	9.1%	10.0%	8.7%	8.3%	8.2%	8.4%	
		7. 何もしなかった						31.9%	31.3%	29.7%	26.6%	23.6%	19.2%	20.8%	
		※回答者数						7830	7853	7384	7007	7381	7534	7664	
	専門	1. ノートや配布資料を復習した							50.7%	56.7%	52.8%	57.8%	62.0%	64.4%	65.6%
		2. インターネットで検索した							27.6%	26.2%	26.1%	24.7%	27.5%	30.8%	35.0%
		3. 参考書を買って調べた							8.7%	8.5%	6.8%	7.9%	8.0%	8.3%	7.9%
		4. 図書館で文献を調べた							12.0%	10.9%	10.7%	8.9%	11.1%	10.5%	11.5%
		5. 友だちと話して理解するようにした							31.5%	35.5%	36.5%	38.9%	39.1%	41.6%	43.1%
		6. 先生に質問した							8.5%	7.8%	6.7%	7.2%	6.7%	6.9%	7.3%
7. 何もしなかった								27.0%	23.5%	24.0%	23.5%	20.5%	17.5%	16.7%	
※回答者数								11077	11625	12280	12016	12054	11635	11215	

*平成 18 年度以降の設問である。なおパーセンテージは、回答者数を分母とした場合の値である。



・学生自身の取り組み⑤-1 「授業時間以外にこの授業に関して自分でどのくらい勉強しましたか。」

		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	
前期	共通	1. 非常によく勉強した		7.0%	3.1%	4.8%	8.7%	9.1%						
		2. よく勉強した		17.4%	8.0%	8.8%	22.0%	22.9%						
		3. 多少はした		36.4%	31.1%	32.9%	38.2%	36.2%						
		4. ほとんどしなかった		20.7%	30.6%	28.8%	17.1%	16.4%						
		5. まったくしなかった		17.9%	27.0%	24.5%	13.7%	15.2%						
		未記入		0.5%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%						
		合計(%)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%						
	合計(実数)		8638	3253	3577	7820	9726							
	専門	1. 非常によく勉強した			7.7%	8.4%	8.2%	8.5%						
		2. よく勉強した			21.1%	21.1%	20.5%	22.9%						
		3. 多少はした			40.2%	39.3%	39.6%	40.8%						
		4. ほとんどしなかった			19.4%	19.5%	19.6%	17.3%						
		5. まったくしなかった			11.3%	11.4%	11.8%	10.2%						
		未記入			0.2%	0.2%	0.3%	0.3%						
合計(%)				100.0%	100.0%	100.0%	100.0%							
合計(実数)			9485	10821	12817	14959								
後期	共通	1. 非常によく勉強した		6.0%	8.2%	9.9%	9.3%	10.6%						
		2. よく勉強した		20.0%	22.6%	25.4%	25.0%	26.3%						
		3. 多少はした		39.6%	40.0%	38.7%	38.9%	38.1%						
		4. ほとんどしなかった		20.9%	16.8%	14.6%	15.1%	13.9%						
		5. まったくしなかった		13.1%	12.2%	11.0%	11.5%	10.8%						
		未記入		0.3%	0.1%	0.3%	0.2%	0.3%						
		合計(%)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%						
	合計(実数)		7707	7489	7530	7641	7918							
	専門	1. 非常によく勉強した			5.6%	8.2%	8.6%	10.7%						
		2. よく勉強した			19.0%	21.8%	24.0%	23.8%						
		3. 多少はした			42.4%	40.0%	40.6%	37.5%						
		4. ほとんどしなかった			23.2%	19.6%	18.2%	18.0%						
		5. まったくしなかった			9.6%	10.3%	8.3%	9.7%						
		未記入			0.1%	0.2%	0.3%	0.3%						
合計(%)				100.0%	100.0%	100.0%	100.0%							
合計(実数)			8442	9792	9355	10370								

*平成 18 年度前期までは、上記の選択肢によって、授業外の勉強時間を尋ねていた。

・学生自身の取り組み⑤-2 「授業時間以外にこの授業に関して1回の講義あたり平均してどのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか。」

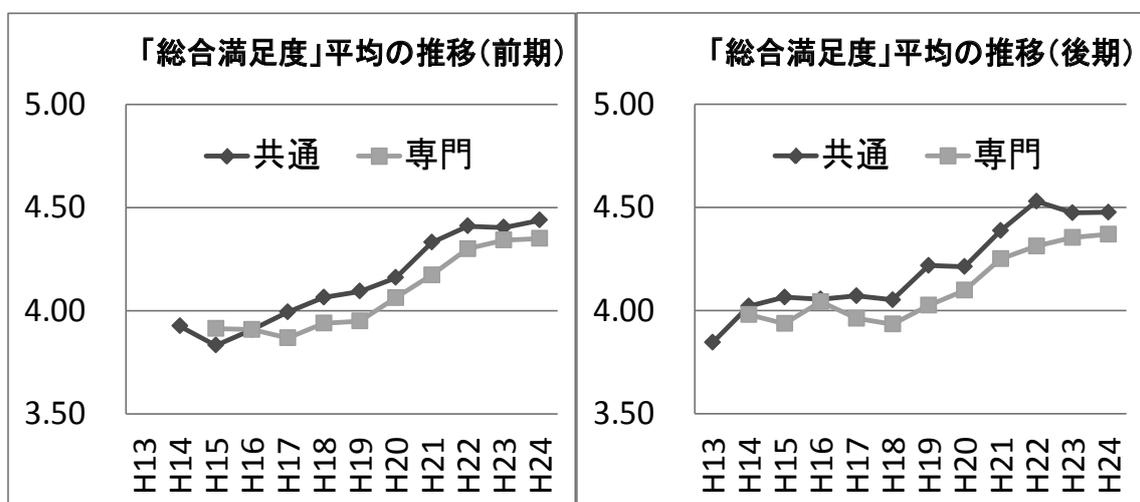
		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	
前期	共通	1. 3時間以上						3.0%	2.5%	2.3%	2.6%	3.4%	3.3%	
		2. 2~3時間未満						4.1%	4.1%	4.2%	4.6%	5.5%	4.9%	
		3. 1~2時間未満							13.6%	14.2%	14.4%	16.1%	16.8%	16.7%
		4. 30分~1時間未満							19.4%	20.4%	20.3%	21.8%	22.2%	22.1%
		5. 30分未満							59.5%	57.7%	58.1%	54.5%	51.4%	52.5%
		未記入・無効							0.5%	1.0%	0.8%	0.4%	0.6%	0.4%
		合計(%)							100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	合計(実数)							9750	9710	10004	9392	9034	9385	
	専門	1. 3時間以上							4.6%	3.5%	3.5%	4.4%	4.7%	4.9%
		2. 2~3時間未満							4.1%	3.3%	3.2%	3.8%	4.3%	4.5%
		3. 1~2時間未満							11.8%	9.7%	10.4%	12.2%	12.1%	14.2%
		4. 30分~1時間未満							17.0%	16.4%	16.6%	19.3%	20.0%	21.3%
		5. 30分未満							61.8%	66.1%	62.8%	59.5%	57.9%	54.3%
		未記入・無効							0.6%	1.1%	3.5%	1.0%	0.9%	0.8%
合計(%)								100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
合計(実数)							15064	15198	14952	14938	13834	14071		
後期	共通	1. 3時間以上						3.4%	2.5%	2.5%	2.4%	3.3%	3.4%	
		2. 2~3時間未満						4.7%	3.7%	4.1%	4.2%	5.1%	4.7%	
		3. 1~2時間未満							14.8%	13.4%	13.9%	16.5%	15.6%	17.4%
		4. 30分~1時間未満							20.2%	20.7%	19.8%	23.9%	24.2%	24.2%
		5. 30分未満							56.6%	59.4%	59.2%	52.8%	52.9%	49.8%
		未記入・無効							0.4%	0.3%	0.4%	0.5%	0.7%	0.6%
		合計(%)							100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	合計(実数)							7830	7853	7384	7007	7381	7534	7664
	専門	1. 3時間以上							4.2%	4.2%	3.6%	4.0%	4.4%	5.3%
		2. 2~3時間未満							4.3%	4.0%	4.1%	3.8%	5.2%	6.1%
		3. 1~2時間未満							11.7%	11.3%	10.5%	11.6%	13.2%	13.6%
		4. 30分~1時間未満							16.7%	17.8%	16.8%	18.3%	19.6%	20.7%
		5. 30分未満							62.6%	62.1%	64.2%	61.4%	56.8%	53.7%
		未記入・無効							0.5%	0.6%	0.7%	0.9%	0.7%	0.7%
合計(%)								100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
合計(実数)							11077	11625	12280	12016	12054	11635	12125	

*平成 18 年度後期からは、問と選択肢を上記のように変更した上で、授業外の勉強時間を尋ねている。

*なお同設問に基づく福島大学生の授業外学修時間の分析については渡部（2013）に詳しい。

・授業・担当教員・教育環境の評価ポイント⑩ 「総合的にみてこの授業に満足しましたか。」

		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	
前期	共通	【 5 】		28.4%	25.5%	28.5%	31.5%	34.5%	37.4%	40.9%	50.2%	56.1%	55.6%	57.4%
		【 4 】		37.7%	36.7%	36.9%	39.0%	38.7%	36.6%	34.8%	33.5%	29.7%	29.5%	29.3%
		【 3 】		21.5%	23.1%	22.3%	19.1%	17.7%	17.4%	15.9%	11.8%	10.6%	10.5%	9.5%
		【 2 】		6.1%	8.3%	7.7%	5.8%	4.9%	4.5%	4.2%	2.3%	1.8%	2.1%	2.0%
		【 1 】		2.7%	3.5%	2.5%	2.4%	1.8%	2.1%	1.8%	1.1%	1.0%	1.1%	0.8%
		未記入		3.6%	2.9%	2.0%	2.1%	2.3%	1.9%	2.4%	1.0%	0.8%	1.2%	0.9%
		合計(%)		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		合計(実数)		8638	3253	3577	7820	9726	9750	9710	10004	9392	9034	9385
		※平均		3.92	3.83	3.91	3.99	4.06	4.09	4.16	4.33	4.41	4.40	4.44
	専門	【 5 】			27.2%	27.6%	26.9%	29.3%	31.2%	36.2%	41.4%	48.8%	52.4%	53.2%
		【 4 】			39.8%	38.8%	37.4%	38.4%	35.6%	35.0%	32.7%	32.9%	30.7%	29.9%
		【 3 】			21.0%	22.5%	23.5%	21.0%	21.6%	18.6%	16.0%	13.5%	12.0%	11.9%
		【 2 】			7.0%	6.8%	7.3%	6.2%	5.7%	4.5%	3.8%	2.5%	2.3%	2.4%
		【 1 】			2.5%	2.4%	3.0%	2.7%	2.9%	2.4%	1.7%	1.1%	1.4%	1.4%
		未記入			2.3%	1.9%	1.9%	2.4%	2.9%	3.4%	4.4%	1.2%	1.2%	1.1%
		合計(%)			100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		合計(実数)			9485	10821	12817	14959	15064	15198	14952	14938	13834	14071
		※平均			3.91	3.91	3.87	3.94	3.95	4.06	4.17	4.30	4.34	4.35
後期	共通	【 5 】	26.9%	30.3%	33.5%	34.1%	33.7%	35.7%	43.2%	43.2%	53.4%	62.6%	58.9%	59.8%
		【 4 】	34.3%	41.3%	41.2%	39.4%	41.0%	36.5%	35.4%	35.0%	32.0%	27.4%	29.6%	28.2%
		【 3 】	22.0%	18.3%	17.4%	17.8%	17.2%	19.4%	15.4%	15.6%	11.0%	7.4%	8.5%	8.8%
		【 2 】	8.5%	5.0%	4.8%	5.1%	4.4%	4.5%	2.8%	3.3%	2.1%	1.1%	1.6%	1.5%
		【 1 】	3.7%	1.7%	1.7%	2.0%	1.7%	2.2%	1.2%	1.2%	0.6%	0.5%	0.7%	0.8%
		未記入	4.6%	3.4%	1.4%	1.7%	2.0%	1.6%	1.9%	1.8%	0.8%	0.9%	0.8%	1.0%
		合計(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		合計(実数)	7707	7489	7530	7641	7918	7830	7853	7384	7007	7381	7534	7664
		※平均	3.84	4.02	4.06	4.05	4.07	4.05	4.22	4.21	4.39	4.53	4.47	4.48
	専門	【 5 】		27.4%	28.3%	33.3%	30.5%	29.5%	33.9%	37.5%	45.3%	49.8%	53.6%	53.9%
		【 4 】		42.1%	39.7%	39.6%	38.6%	36.1%	35.6%	36.0%	34.6%	32.3%	29.9%	30.1%
		【 3 】		20.1%	21.8%	19.2%	20.2%	22.8%	20.0%	18.0%	14.9%	13.6%	11.6%	11.5%
		【 2 】		4.9%	6.6%	5.0%	5.9%	5.4%	5.0%	4.3%	2.6%	2.2%	2.2%	2.3%
		【 1 】		1.5%	2.1%	1.6%	2.8%	2.5%	2.2%	1.9%	1.1%	1.0%	1.6%	1.2%
		未記入		4.0%	1.5%	1.3%	2.2%	3.6%	3.2%	2.4%	1.5%	1.1%	1.1%	1.0%
		合計(%)		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		合計(実数)		8442	9792	9355	10370	11077	11625	12280	12016	12054	11635	11215
		※平均		3.98	3.94	4.04	3.96	3.93	4.02	4.10	4.25	4.31	4.35	4.37





10.福島大学の演習科目に関わる座談会

福島大学の演習科目に関わる座談会

福島大学の演習科目に関わる座談会

1. 趣旨（平成25年度 年度計画）

教養演習を含む、学士課程4年間を通じた演習科目について、学生の意見を反映した改善案を検討するために、学生、教員等による座談会を実施し、現行カリキュラムにおける演習科目の抱える課題を整理する。

2. 開催日時・場所

- ・日時：3月10日（月） 10：30～（1時間程度を予定）
- ・場所：教育担当副学長室（参加人数によっては変更有）

3. 座談会の主な内容

- ①教養演習について（教養演習で学んだこと、教養演習に求める内容、その他要望等）
- ②2年次以降の演習科目・ゼミ活動について（演習で学んだこと、その他要望等）
- ③思考力、表現力の向上に役立った演習科目、ゼミ活動の内容について
- ④4年間を通じた演習科目の充実について（各学年次における演習科目の役割等）
- ⑤その他、福島大学における演習科目・ゼミ活動が抱える課題について

4. 参考（関連する中期目標、中期計画、年度計画、及び前期到達点）

- ・関連する中期目標

【I-①】 本学の教育による到達水準や学類、専攻の教育目的を明確化するとともに、学生の主体的な学びを重視し、個々の学生の能力・意欲を一層向上させる教育体系の充実を図り、卒業生の質の保証を確保する。

- ・関連する中期計画

思考力、表現力等の一層の向上を図るため、学士課程4年間を通じて演習科目などの少人数教育を充実させる。

- ・関連する年度計画

教養演習を含む、学士課程4年間を通じた演習科目について、学生の意見を反映した改善案を検討するために、学生、教員等からの意見聴取（聴き取り調査、座談会）を実施し、現行カリキュラムにおける演習科目の抱える課題を整理する。

- ・上記年度計画に対する前期到達点

教養演習を含む演習科目の改善案を検討するため、学生に対するサンプル的な聴き取り調査を実施した。調査の結果、教養演習に対しては、大学での学び方、プレゼンスキルなど、汎用的な内容を求める声の一方で、「汎用スキルよりも、もっと専門に関わる内容が学びたかった」との不満もあり、学生ニーズの複雑さが明らかとなった。また、2年次以降のゼミ選択に対しては、希望ゼミから外れることへの不満の他、ゼミ配属までの具体的なプロセスがわかりにくい、との声があった。

5. 「福島大学の演習科目に関わる座談会」実施メモ

日時：2014年3月10日 10:30～12:00

場所：教育担当副学長室

参加者：学生3名。卒業生2名。その他教職員5名。

※以下、発言内容の要約。本メモでは学生3名、卒業生2名の発言のみ記載。

- －学生A：経済経営学類4年生
- －学生B：人間発達文化学類4年生
- －学生C：経済経営学類2年生
- －卒業生A：人間発達文化学類卒業
- －卒業生B：行政政策学類卒業

質問1：1年次における演習科目（教養演習）の内容と感想

・学生A：前期と後期で先生が別々であった。前期の先生は、シラバスにレポートの書き方をやる、との記述があったので選択した。しかし、学生の4分の1が留学生であったことから、親睦をはかることがメインとなり、レポートの書き方指導はやらずじまいとなった。後期ではレポートの書き方が扱われたが、特に指導はなく、宿題として課された。また提出しても添削等はなかった。後期の内容はテキストを使っての要約がメインであった。テキストは市販のテキストで、アカデミックスキルに関するものであった。タスクが多く、進捗が早かった。レポートのタスクが早く終わったので、そのあとは、ワークライフバランスに関するグループワークと、プレゼンとなった。これは、ためになった。

・学生C：前期と後期で先生が別々であった。前期は、本を読んできて、要約して、感想を述べるというスタイルだった。小学校のようで不満であった。後期はビジネスゲームをおこない、チームごとにプレゼンを行った。これは、ためになった。

・学生B：通年、同じ先生であった。全体的な枠組みがあったような気がしない。内容としては、学びのナビを利用。たとえば、ノートテイキングについて、先生が授業をおこなったのをノートにとり、提出。次の回で各自が、ノートに基づいて授業内容を説明、といったようなことを行った。その他、新聞記事に基づいて感想を述べるというようなことをやった。これは興味をもった記事ごとにグループをつくり、パワーポイントでプレゼン、といった内容であった。パワーポイントの作り方や、プレゼン方法では、学びのナビが用いられた。ノートテイキングは前半、プレゼンは後半であった。基本的には教室内で完結する活動であった。なお、これは文化探究専攻所属としてのクラス内容である。

・卒業生A：自分は2005年に、新カリキュラムの第1期生（人間発達専攻）として教養演習をうけた。初年度ということで、先生方も模索しながらだった。前期後期で違う先生であった。前期は、興味ある本を読んで発表するという内容であった。授業の時間に、皆で図書館にいった本を探す、といったような活動も行った。ただ、常にクラスのメンバーが全員そろっていたわけではなかった。また、発表にあたっての方法の指導は特になかった。後期は、一つのテーマを扱った。おおまかなテーマで、たしか“教育”というようなものだったかと思う。授業スタイルは前期と一緒に、各自調べて発表を行うといったものであった。レポートの発表の仕方は、各自ばらばらであった。一方、文化探究専攻では、当時

から面接の指導などを行っていた。これに対しては、“いいな”と感じていた。

・卒業生B：通年で同じ先生であった。厳しめのゼミであったように思う。前期は本を読んで、要約してまとめる、という内容であった。本は町づくりに関するものであった。後期は、町づくりに関するフィールドワーク、その内容のプレゼン、及びレポートといった内容であった。前期、後期とも、参加してみて、自分は結構好きな活動内容であった。なお、プレゼンやレポートについては、細かいレクチャーはなかった。学生同士で授業外で話し合い、プレゼンやレポートの対策を練った。

(教養演習に関する不満はないか、との質問に)

・学生A：シラバスと授業内容が違うこと。経済経営学類では、教養演習の希望科目を入学前に決めなければいけないが、先生の専門分野も性別もわからない（後で、ネットで調べればわかるということに気づいたが、、、）。特に、実際に受けてみると面白いのに、シラバスの内容が堅すぎて人がこないということがあった（ただ、面白いかどうかは、先生との相性や、受けている学生がどんな人たちかにもよる）。あと、基本的に1回完結なのだが、進み具合がばらばらであるということもあった。

・学生B：先生が選べないということ。違う演習では、教授にインタビューを行っているところもあった。その演習を受けた学生は、学年が上がっても先生を良く知っていて、“いいな”と思った。また、自分の受けた演習では、その週ごとの目的がわからない回があった（全体の目標もわからなかったが）。実際に参加して、はじめてわかるという感じだった。シラバスにも、あまり詳しく各回の内容が書いておらず、またシラバス通りには進まなかった。目的がわからないで参加するというのは、学生にとってもよろしくない。ただ、顔なじみと会えるというのは良かったように思う。

・学生C：受ける前は、ゼミがどんなものか良くわからなかった。実際に受けてみたら、経済経営学類に入ったはずなのに、関係のない話で、、、自分のクラスでは愚痴が絶えなかったように思う。第5希望だったこともあるのかも、、、

・学生A：自分は第2希望だった。入学前に選択するので、大学案内に出てる先生など、顔のわかる人に集中する。

・卒業生B：行政政策学類では、ガイダンスの際に選ぶこともあり、ある程度、希望がかなう。ゼミが2～3年生まで続くかたまり。最初の教養演習の人間関係が続く。

・学生A：経済系学類で、自分の受けた教養演習では、仲間意識は0。3専攻に分かれるのもあるかも、、、

・卒業生A：人間発達文化学類は、教養演習に限らず、クラスのまとまりで授業を受ける。クラスは強制的な配分だが、男女比なども均等で、良かった。

・学生B：自分も、クラスでまとまって良かったと思う。ただ、クラスがあっても、そのコアとなるのは教養演習。教養演習がないと人間関係ができない。

・卒業生A：自分も県外から来て、知り合いがいない状態だったが、教養演習ではじめて友達ができた。

・学生C：自分も、教養演習の人間関係は、前期のクラスでも、後期のクラスでも残っている。

・学生A：自分の場合は、ゼミと異なる専攻を選んだという特殊事情もあったかもしれない、教養演習で受けた先生と同じ専攻を選ぶ学生も多い。

質問2：2年次以降における演習・ゼミの内容と感想

・学生A：ゼミ選択は2年の後期。2年の6月にオープンゼミがある。火曜日と木曜日にゼミ公開があって、それぞれ3回ずつみて、3つまで絞らないといけない。ゼミを選ぶ際に一番参考にしたのは口コミ。あとは、授業で受けた先生など。オープンゼミの学生によるプレゼンがまじめかどうかも参考にした。オープンゼミの内容は様々。座談会形式だったり、学生が1対1で対応したり、先生がしゃべりつづけてたり、20分でプレゼンしたり。そういう中から、自分にあっているところを選ぶ。希望ゼミへの配属は、エントリーシートの提出と、面接を経て。特定の人に集中しがちである。自分は希望通りのゼミに行けた。8人の枠で18人の応募で、そのうち12人がゼミに入れた。自分のゼミでは、2年生から3年生にあがるときに、卒業論文のアウトラインを示すことが課せられた。ただ、そのまますぐに卒業論文の準備にとりかかるのではなく、就活を挟んで、そのあとに卒業論文に取り組んだ。2年次のゼミの内容は、金融など新聞記事を読んで、個人でレジュメをまとめるといったものだった。3年生にあがってからは、3人グループで、TPPなど今の経済の問題をテーマに、パワポ発表などを行った。3年生になってからの活動は大変であった。

・学生C：自分のゼミでやっているのは、投資のオプションの話や、4年生の卒論発表等。自分も希望のゼミに進めた。ただ、友達は行きたくないところに行くことになった。その友達は“人生が変わってしまった”と言っていた。行きたいところに行けないのは問題である。

・学生B：人間発達文化学類では、3年前期が終わる頃にゼミ選択がある。各自、先生にアポイントをとってゼミの説明を受ける。2年生のゼミは基礎演習。1年次の後期に希望出す。その際に、自分の卒論でやりたい内容を示す。自分の受けた基礎演習は震災の内容を扱った。グループでレポートをまとめるという体験であった。筋が通った内容であった。3年次でゼミの役割をはたすのは、情報専門リテラシー。その後、本ゼミに配属される。自分の周りでは希望から外れる人はいなかったように思う。個人面接をしているからではないかと思う。

・卒業生A：自分のときは、2年後期から基礎演習であった。2年前期は、そのクラス決めにあてられていた。本ゼミは、学生2人、先生も含めて3人で。一週間に1冊の本を読んできるという内容だった。何を聞いても、先生が知っていたので、だんだんと、学生2人の間では、先生が知らないことを質問することがねらいとなっていた。

・学生B：自分もゼミ配属後の内容は、1週間に1冊の本を読んできるといったものだった。

自分のゼミでは先生が本を読むスキルを教えてくれた。フォトリディングやマインドマップなど。これは、ためになった。卒論については、4年の前期に目次を示すよう求められた。4年生のゼミでは主に卒論指導となった（これは人による）。はじめの方は、院生も参加していて論文の書き方、文面の指導をしてくれた。先生はむしろ、書き方等の指導はやらなかった。院生の指導は助かった。

・卒業生B：行政政策学類の2年次の演習は、専攻入門科目であった。1クラス30人ほどであった。専攻によって明暗が分かれていたように思う。法学専攻、社会と文化専攻は目的がはっきりしていたが、自分の所属していた地域と行政専攻では、目的が不明瞭だったように思う。また地域と行政専攻の中でも、学芸員取得の目的を持った人などと、他の人との間で違った。自分がうけた専攻入門科目では、まちおこしとフィールドワークを扱った。自分としては良かった。ゼミへの所属は3年の前期から。2年後期にゼミ見学やゼミ紹介のうえでゼミを選択した。自分のところは40人が希望して、30人くらいが入った。3年次はずっとフィールドワークをやっていたように思う。身体を動かすのが好きな自分には楽しかった。ただ、やる気のない人もいたし、また公務員志望者などには参加しない人もいた。その他、座学としてロールプレイをやったりもした。卒論指導は学生によって異なった。4年の夏休みから取り掛かった人もいれば、4年の最後1週間で書き上げた人もいた。

・学生A：経済経営学類にも1週間で書いた人がいた。

質問3：各学年次の演習・ゼミ活動に望むもの

・学生A：今日の話聞いて、卒論の前に、データを集めるスキル（フォトリディングなど）を演習で扱ってもらえるといいな、と思った。自分の周りでも、4年生は、卒論をつくるうえでのデータの集め方がわからず、“やばいやばい”と言っていたように思う。こういったデータ集めのスキルについては、3年生のゼミが良いかなと思う。2年生のゼミは、普通のゼミ活動で、ゼミになれる機会かと思う。自分のところでは、毎回、質問1人1回が課せられて、先輩に質問したりした。1年生については、今日の話聞いて、専門のらしのようなものがあったら面白いかな、と思った。アカデミックスキルの基礎も大事だが、共通教育でもやってくれので。

・学生B：自分は、1年次から2年次は、アカデミックスキルなど基礎的な内容をやってほしい。あとは、大学を使いこなす方法をやってほしかった。人間発達文化学類の場合、専門はしぼりにくいように思う。また、2年次でグループでの調べ学習ができたのが良かった。後にも先にも、グループで計画して、全員でレポートを完成させるという機会はなかった。データの扱い方など、卒論の練習にもなった。

・卒業生A：自分は、1～2年次は、人前で発表する機会があると良いように思う。情報専門リテラシーでのパワーポイントの作り方なども良かった。3年生になった後はバラバラで、発表しないところもあるから、やはり1～2年次にそういう経験があった方が良い。4年次にプレゼンテーション演習があるが、あまり機能していない。

質問4：その他、これだけは変えて欲しい、という点について

・学生B：1年次の教養演習の内容がバラバラであること。オムニバスで教員が担当して、最後に課題のレポートを出させるだけのものもあった。ある程度均一にしてほしい。たとえば、『福大の顔』を使って、人間発達文化学類の中身、先生方について知る機会が、教養演習で用意されていると良いように思う。インタビューを課せば、アポイントのとり方や、話の聞き方の練習にもなる。また書き方、読み方、話し方などの大学での学びの基本、アカデミックスキルについても扱ってほしい。

・学生A：各専攻の中身がよくわからなかった。学習案内には書いてあるけれど、詳細はわからない、、

・学生C：入りたいところに入れるようにしてほしい。学生のなかには強い夢や目的意識を持っている人もいれば、適当にゼミを選ぶ人もいる。目的をもった学生が外れて、適当に選んだ人がゼミに入れる、といったようなことがないよう、ちゃんと選別してほしい。

・卒業生B：大事なものは目的意識だと思う。2年次前にだらけてしまう。どこかで、目的意識を明確にする機会があった方がよい。

平成 25 年度（2013 年度）
福島大学 FD 活動報告書
～大学教育改善の追求～

平成 26 年 3 月発行
編 集：福島大学教育企画委員会
発 行：福 島 大 学

